

田植えまでの道のり「春作業」

5月下旬になると、こんな事を言われます。「ま～(田植えは)終わったきゃ?」「いいえ。まだ1本も植えてませんよ!」そうなんです!この地域の田植えは6月にするのが慣習です。日本全国的に見て、田植えの遅い地域なのです。今年の田植えは6/1から。田植えまでの作業の事を「春作業」というのです

その1「田んぼの準備」

稲刈りを終えた11月から翌年の5月にかけて、田んぼでは次の年の準備が始まります。畦の補修、耕起作業を3回周り、用水の掃除に補修、春には畦畔の草刈りも大事な仕事です。

その3「パタパタ」

苗箱を並べる「苗田(なえだ)」を作ります。田んぼに水を入れて代かきをした後、建築現場で使う“土間たたき”で平らにならしていきます。これは苗への水かかりを均一にして、成育を揃えるための準備です。通称「パタパタ」。後ろに向かって進んでいきます。



その2「粃まき」

女将さん(45歳)が小学生の頃、ゴールデンウィークは粃まきのお手伝いをしていました。「粃(もみ)まき」とはお米の種まきの事。ベルトコンベアに苗箱を通して、土→水→粃→土と進みながら種まきしていきます。



その4「苗並べ」

春の作業の中で最も過酷な作業が「苗並べ」。ひよろひよろっと発芽した苗箱(1枚5kg)を何枚も持ってぬかるんだ苗田を歩いて並べていきます。今年は延べ5日間に渡って12,000枚の苗を並べました。おつかれさま～!



麦刈りが始まったよ！

愛知県内で大麦を栽培しているのは丹羽郡だけ！
大麦はビールやウイスキー、麦茶の原料となりますが、
私達の麦は六条大麦という種でポッカサッポロさんから
「にっぽん麦茶」として販売されています。
大口町の大麦は品質や香り、風味が良いそうです。
服部農園では地域の大麦栽培の50%を担っているのです。



第126回 愛知県農業祭献穀事業

5月16日、大口町役場前の献穀田では「お田植祭」が催され、献穀田での米づくりが始まりました。
献穀事業とは、地域に「斎田」を定め、収穫されたお米を宮中はじめ、伊勢神宮、明治神宮、熱田神宮
に上納する事業で、愛知県では明治25年から
続く格式ある伝統事業です。愛知北農協が祭事を
米づくり(献穀者)を服部農園が担っています。
宮中では「新嘗祭」のあと天皇陛下が御自らお召
し上がりになるそうです。
秋に無事に安心して安全、おいしい米を天皇陛下に
献上できるよう農園メンバー全員で力を合わせて
米づくりしていきます。米づくりの様子は通信で
お知らせしていきますね！



お休みのお知らせ

◎6月30日(土曜日)～7月2日(月曜日)

◎7月14日(土曜日)、15日(日曜日)

勝手ながら全ての業務をお休みさせていただきます。
ご連絡、ご注文はお早めをお願いします。

完売のお知らせ

29年産「みねはるか」、無農薬栽培「ひのひかり」
「みねはるか」は完売いたしました。
減農薬栽培「ひのひかり」は残りわずかです。

編集日記

いよいよ6月。一年で一番忙しい季節を迎えました。
2ヶ月に1回発行する「はっとり農園通信」も創刊より
2年が経ちました。季節や天気、植物の成育に左右さ
れる「農業」という仕事。「休日」はあるの？と聞か
れます。農園で働く仲間も増え、昔より休みは増えま
したが、まだまだ少ないのが現状です。農園メンバ
ーも結婚をして子どもを持つ仲間が増えてきまし
た。彼らを支えてくれているのは、家を守ってくれて
いる奥さんや子どもたち。そんな子供たちにお父さ
んの頑張る姿を伝えたくて通信を発行し始めまし
た。みんなの支えで今日の農園はあるという事を忘
れずにいたいです。 女将さんより

【私たちのミッション】 10年後、100年後、この町にこの景色を残したい

私たちは地域に根を張り、若い人材の育成と、次世代へつなぐ循環型農業に取り組んでいます。

服部農園有限公司 〒480-0125 愛知県丹羽郡大口町外坪 3-158

TEL:0587-81-6688 / FAX:0587-94-1020 / Facebook 毎日更新中/http://www.hattorinouen.com

このお便りは服部農園でお米を買って下さっている方、農地のご地主様を含め、ご縁のある方に発行しております。
「次回からは不要だよ」という方はお手数ですが、メールかFAXにてお名前をご記入の上、ご一報願います。